

司会を担当したFグループ「寿司れでい」



講師の立川美夏子氏

# 女性活躍推進フォーラム 第4回

## 本番に向けプチプレゼンを実施

### 立川美夏子氏がセミナーで指南

人材育成委員会は第4回女性活躍推進フォーラムを12月21日にオンラインで開催し、会員企業19社から女性正規社員31人が参加した。今回の司会はFグループが担当し、委員とともに会の進行を行った。各グループの進行状況確認と、プレゼンテーションの経験値を上げるため、フォーラム冒頭、1グループ5分の持ち時間でプ

チプレゼンを行った。企画書を元に、提案議題や目的、企画内容の概要などを説明。内容固めに注力するグループ、プレゼン資料作成に取り組むグループなど、進行状況は様々だった。次の本番に向けて、さらにデイスカッションを進めていく。「実務の後押し」となるセミナーには、前回に続き立川美夏子氏(株)エンタテインメントビジネス総合研究所)が登場し「プレゼンテーション」提案力を高める!!」と題し、講演した。

を引用し、プレゼンに対して苦手意識を持っている人、にこの言葉を贈りたいと述べた。一番大切なのは準備であり、やるべきことが決まったら絶対にこのプレゼンを通すぞ、という執念が必要になるという。そして伝えるべき要点がきちんと整えられているかを、今一度振り返ってみることが重要だと説明した。

況は様々だった。次の本番に向けて、さらにデイスカッションを進めていく。「実務の後押し」となるセミナーには、前回に続き立川美夏子氏(株)エンタテインメントビジネス総合研究所)が登場し「プレゼンテーション」提案力を高める!!」と題し、講演した。

プレゼンテーションとは計画、企画案などを会議で説明すること、を意味し、自分の意図や意志を伝えて、相手に承認や協力などをしてもらうことがその目的で、相手の立場に立って伝えていく必要があるという。

「やるべきことが決まっていたら、執念をもってとことんまで押し詰めよ。問題は能力の限界ではなく、執念の欠如である。」という土光敏夫氏の言葉

結論を簡潔に伝える技術にTNP R E P法がある。ポイントや結論はなにか(Point)、そこに至る理由(Reason)、どんな事例があるのか(Example)、そしてポイントや結論を繰り返す(Point)の順に展開していく。複数のポイントを伝える場合にはここに、これから何について話すか(Thema)、言いたいことはいくつあるか(Number)が加わる。

提案準備の必需品である企画提  
案書の作成もTNP R E P法に則り、理由や狙い、効果、さらには予算、スケジュールなどを簡潔にまとめる。これらの資料を示しながら、意識してゆっくり話すことや相手の視線を的確にページに誘導するテクニックなどを使っていく。さらにプレゼンには、非言語情報を伝えられるメリットがあり、目線や表情、手の振りなどから、プレゼンターの熱意や自信を伝えていくことが可能だという。

最後に羽山雄介副委員長から「立川先生からプレゼンテーション

#### 参加者 (順不同、敬称略、(株)氏名冒頭○がリーダー)

- MAVIE**=坂本佳子(ABC)、滝田沙奈(日拓ホーム)、井上理絵(マルハン)、宗廣由佳(マンドレ)、光明院愛(メッセ)、○杉水流詩織(ユーコー)
- チームKP**=古謝杏奈(オータ)、相星千明(玉屋)、○竹林千遥(ピーアークホールディングス)、山藤奈巳(プローバ)、大橋由華子(マルハン)、
- Ctube**=知花綾乃(新富商事)、後藤絵梨(善都)、○長谷川瑠美(NEXUS)、佐藤琉菜(平成観光)、多々納真衣(安田屋)
- ナチュラルウーマン**=宮下真林(アサヒディード)、藤原今日子(玉屋)、丸山優子(西の丸)、○山田佳南(平成観光)、野田侑希(マルハン)、
- E-girls**=○徳永成美(新富商事)、横井千夏(善都)、堀友梨(ダイコク電機)、新沼佑莉(メッセ)、松本菜紀(ユーコー)
- 寿司れでい**=田口佳澄(オータ)、上原佳奈恵(西の丸)、○江口彩音(日拓ホーム)、遠藤瞳(ニラク)、君島和(安田屋)

ンについて学びましたが、私からも一つアドバイスをおきたいと思えます。次回の本番では派遣担当者の方々が審査員となりますが、みなさんの企画を初めて聞くこととなります。そういう方の視点に立って、ロジカルに話を進め

## 人材育成委員会

12月21日  
本部会議室(ウェブ会議)  
出席委員等15人

# 最終回のプレゼンもウェブ方式 女性活躍推進フォーラム

同日に開催された第4回女性活躍推進フォーラムの手順詳細と、2月24日に予定されている最終回の内容などを協議した。社会情勢を考慮して、最終回もウェブ会議システムで開催する。例年通り各社の派遣担当者も出席し、6チームが企画した「女性活躍推進をテーマにした、自社に持ち帰り実践できる企画のプレゼンテーション」を視聴する。各チームへの質疑応答が昨年は活発に行われたことを考慮し、今回は時間を増やしたプログラムとする。

ることを意識してください。そして、ここに参加させてくれた派遣担当者にも、みなさんの成長を見せてください。繁忙期と重なり大変だと思いますが、どうか最後まで目標をもって進めていただきたいと思えます」とあいさつした。

創出にポイントを置き、既存事業の女性活躍推進フォーラムと人材育成フォーラムの継続を検討。いずれも知識吸収や人脈拡大などに加え、参加者のモチベーションアップにもつながっているため、継続することとした。派遣担当者へのヒアリング(予定)や今年度の反省を踏まえ、企画内容や方法など改良を加えていく。

さらに2022年4月から中小企業を対象に改正労働施策総合推進法が施行されるなど、雇用環境の変化も想定されるため、これまで以上に雇用側の思考の変化が求められると予想される。これら変化への対応も考慮しながら新たな

事業の追加も検討し、事業計画に

ついでの協議を継続する。

## 広報調査委員会

12月17日  
本部会議室(ウェブ会議)  
出席委員等11人

# 141店舗から2546の回答 ファンアンケート2021

11月に開催した第3回広報担当者井戸端会議について、参加者アンケートの結果共有と、ファシリ

発言があった。現在集計と分析を進めており、3月に発表を予定している。

テーターを務めた委員の改善提案などをもとに協議し、次回に向けて課題抽出を行った。参加者からはリアル開催希望の声も挙がっており、次回開催時の社会環境も考慮し開催方法を検討していく。

大谷和也委員(NEXUS)が、同社が12月に発行した「SDGs新聞第2号」の概要や現在の取組みなどを報告、参加委員からの質問を受けると活発なディスカッションが展開された。

2022年度活動計画を検討した。基本方針に基づく施策を継続していく。他委員会の広報支援や広報の立場で学ぶSDGsの勉強会など新たな提案もあり、2月まで協議していく。

福山裕治委員長は、「SDGsに関連して、GRI、国連グローバル・コンパクト他がまとめた『SDG Compass』SDGsの企業行動指針』に示されている5つのステップのうち、最後のステップに『報告とコミュニケーションを行う』とある。日遊協の各委員会やPTが活動した結果をどう広報していくかがいざれ求められてくると思うので、選択肢を多くしておくためにも委員で知識の共有をしておくのは良いと個人的には思う」と述べた。

「パチンコ・パチスロファンアンケート2021」の回答回収が締め切られ、141店舗2546の回答を得たことが報告された。コロナ禍の緊張した環境下で行われた店頭でのアンケートは、「大変負担だったと推察する。実施協力店舗に感謝したい」と担当WGから